

令和 5 年度 第 1 回浦添市地域公共交通活性化協議会
議事要旨

日時：令和 5 年 7 月 2 4 日（月）

13：30 ～ 16：30

場所：浦添市中央公民館 3 階ホール

開催方法：ハイブリッド会議

■ 1 委嘱状交付

■ 2. 1 浦添市地域公共交通活性化協議会規約（案）の承認について（資料 1）

■ 2. 2 会長及び副会長の互選

■（議題）3. 1 協議会の位置付けと今後の進め方について（資料 2）

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
	質問・意見無し	

■（議題）3. 2 計画策定に向けた現状整理に関する報告 ①公共交通に関する現状把握（資料 3）

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
株式会社琉球バス 交通 代表取締役 小川 委員	<p>① 9 頁の「浦添市への通勤通学」「那覇市への通勤通学」にて示されているバス利用率の差はどのように分析しているのか、理由はあるのか。</p> <p>② てだこ浦西駅にて、交通結節点として円滑な乗り継ぎを誘導できる案内環境を整備すべきでは。</p> <p>③ 37 頁にて観光客の路線バス選択が増とあるが、観光客が戻ってきている実感がバス事業者はない。</p>	<p>（事務局）</p> <p>① 一概には言えないが、傾向として市外線のバス路線が那覇に向かう前提で敷かれ充実していることや、那覇市と浦添市における月極駐車場賃料の差、那覇市従業地（県庁等）のバス路線の充実度から浦添市→那覇市のバス利用率が高くなっていると考えられる。逆に浦添市の従業地の路線充実が不十分なため那覇市→浦添市のバス利用率が低くなっているとも言えるのではと考えている。</p> <p>② 現在幸地 IC ではバス停にモノレール乗り継ぎ情報を掲示する等の取り組みを行っている。これに伴い、てだこ浦西駅でも利用者にわかりやすい案内表示等をモノレール株式会社と協力して前向きに検討していきたい。</p> <p>③ 全体に対する割合なので見え方として誤解を与えたかもしれない。</p>

		<p>確かに R3 の母数はコロナ化でもあったため H23 よりかなり少なくなっているが、その中でツアー等の観光バスが減り全体の選択肢の中で路線バスが選ばれる割合が高くなっているというグラフとなっている。</p>
<p>浦添市身体障がい者福祉協会 副会長 宮城 委員</p>	<p>① 福祉移動支援は存在し利用することはできるが、障がい者個人でしか利用できない決まりになっている。家族との外出をサポートしてくれるサービスや、路線バス等でも気軽に利用できる環境を整えてほしい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① バス協会のほうでもノンステップバス等の低床バス導入を随時して頂いている現状であるが、全県的に取り組むべき内容であるため本協議会でも誰もが移動しやすい乗り物の検討を進めていきたい。</p> <p>(小川 委員)</p> <p>① 以前バス協会の会長を務めた。県・局、弊社でもノンステップバス導入に努め、沖縄県は 70%程度普及で全国 5～6 位だったと思う。今後も県のほうにノンステップバスの導入要望をしていきたい。また、弊社では知的障害発達障害の方の利用サポートとして交通エコロジーモビリティ財団と沖縄県発達障害者支援センターの支援のもとコミュニケーション支援ボードや筆談可能体制を路線バス約 800 台・観光バスのバス協会加盟の約 600 台で導入している。今後も誰でもどなたでも利用してもらえる公共交通のバスを目指し、ご意見をもらいながら努力していきたい。</p>
<p>浦添市観光協会 事務局長 千住 委員</p>	<p>① 公共交通を利用して観光してもらうためにソフト面から観光ガイドマップ改定(バス停表示・モノレール時刻表表示等)を行っている。また、沖縄の路線バスという雑誌に広告を出している。今後も路線バス・ゆいレールの利用促進を図りながら観光客を誘客・集客していきたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 浦添市でも沖縄 MaaS の各種取り組みを行っている。公共交通の電子チケット販売は現状できていないので、本協議会でも市民・観光客の利便性向上に向け整理を進めていきたい。</p> <p>(小川 委員)</p>

	い。そのような観点から、資料に沖縄 MaaS の整理がなかったが、どのように考えているのか。	① 我々琉球バス・那覇バスのほか沖縄バス・東陽バスに協力いただいて my route (マイルート) という MaaS を行っている。観光客を含めた公共交通利用増進の意味でも沖縄 MaaS だけでなくこちらもご活用願いたい。また、那覇バスとモノレールでバスモノパスという取り組みを行っている。このような、モノレールとバスの連携した利用促進も進めていきたい。そのほか交通混雑解消のため、レンタカー事業者と連携し、空港～名護まで高速バス、名護からレンタカーレンタルという取り組みも開始している。このような取り組み含め MaaS 等推進に努めたい。
株式会社琉球バス 交通 代表取締役 小川 委員	① 運転手不足について、本島4社（琉球バス・那覇バス・沖縄バス・東陽バス）では70歳以上が全体の2%、60歳以上35%、20代2%と今後も不足が予測される恐ろしい状況である。このような厳しい現状から、県にも要望しているが、県立学校・県立職業能力開発校等において2種免許取得コースやそれを支援する学科の設立、併せて奨学金支給をして頂きたい。鉄軌道のない沖縄において公共交通の維持は大きな課題だと考える。県含め、市内に複数高等学校等がある浦添市でも支援願いたい。	(事務局) ① (時間の都合上、回答なし)

■ (議題) 3. 2 計画策定に向けた現状整理に関する報告 ②市民の移動実態アンケート (資料4)

発言者	主な指摘・意見	回答・対策方針など
浦添市婦人連合会 会長 照屋 委員	① 自動車免許を取得していないので、日ごろから路線バス・モノレールを頻繁に利用し、助かっている。うらちゃん mini も利用し、とても便利かつ地域のひととのコミュニケーション	(事務局) ① うらちゃん mini がコミュニティの繋がりとなっていたということは喜ばしい。本協議会にてコミュニティバス含め多様な移動サービ

	<p>ョンにも役立っていたのでぜひ復活を願う。</p>	<p>スの検討や公共交通の利用・利便増進を議論していきたい。</p>
<p>沖縄県バス協会 専務理事 慶田 委員</p>	<p>① アンケートのバスの回答選択肢として「バス待ち環境」についてのもがないが、そのような意見は聞かれなかったのか。</p> <p>② シェアサイクルを利用する70代が自転車利用における保険に入っているか調査をしたことはあるか。</p> <p>③ クロスセクター効果の検証について詳しくお聞かせ願いたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① アンケート分類ではなかった。ただ自由回答の欄があり、こちらの集計はまだ終了していない。次回協議会にて報告させていただきたい。</p> <p>② 浦添市とシェアサイクル事業者が協定を結ぶ形で運営している。事業者側の利用サービスに保険が含まれている。</p> <p>③ 市の各分野上位計画の中で公共交通に関する課題が挙げられている。クロスセクター効果とは、個別の分野で、個別の事業ごとに、個別の移動サービスをやるのではなく、総合的に包括するような横断的な移動サービスを構築することで、トータルコストを下げようという考え方となる。</p>
<p>株式会社琉球バス 交通 代表取締役 小川 委員</p>	<p>① 南地区の最寄りモノレール駅で古島駅の名前が出たが、こちら乗換標識・案内の不足を感じる。</p> <p>② 浦添市役所のほうで以前は沖縄 IC カード（以降 OKICA）の販売がされていたが、今は販売していた場所にコンビニができています。公共交通利用促進の一環としてOKICAの利用増進を願いたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 利用者目線だと乗り継ぎ拠点の整備は必要だと考えている。乗換のデータが入手できれば適切にサイン計画等の提案ができるのではと考えているので、バス会社等の協力検討を願いたい。</p> <p>② おっしゃる通り以前役所で販売していたが現在はできていない。ただ、コンビニのほうに打診しOKICA 販売検討を前向きにして頂いている。可能であれば今後も市として働きかけていきたい。</p>
<p>内閣府沖縄総合事務局 運輸部 企画室 室長補佐 金城 委員</p>	<p>① 国土交通省の地域公共交通維持確保改善事業における補助金交付事業の活用をご検討であれば、地域公共交通計画の策定が必須となるので、この調子でしっかりと計画策定を進めて頂きたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>① 承知した。</p>